東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2006年6月9日

礼拝場と集団的意識

親愛なるムスリムの皆様。クルアーンでは、人はアッラーを信仰し崇拝行為を実践する為に創造されたことが示されています。５回の礼拝は、崇拝行為に占める重要性の為、信仰の次に最も重要な条件としての位置を占めています。日に５回の礼拝は、一人でも、集団ででも行なうことができます。ただし預言者（彼の上に祝福と平安あれ）は、集団で行なう礼拝には２７倍の善行があることを示され、集団で礼拝することを勧められておられます。

モスクは、イバーダを行い、アッラーを想念し、教育やしつけが行なわれ、やすらぎと静けさのある空間です。その為私達の教えでは、モスクに重要性を置いています。崇高なるアッラーは、クルアーンで、「アーダムの子孫よ、何処のマスジドでも清潔な衣服を体につけなさい。そして食べたり飲んだりしなさい。だが限度を越してはならない。本当にかれは浪費する者を御好みにならない。」（高壁章第３１節）と仰せられています。

親愛なるムスリムの皆様。クルアーンの章句からも理解できるように、イスラームにおいてモスクは重要な位置を占めています。アッラーの家とされるモスクは、イスラームのシンボルと見なされます。聖預言者（彼の上に祝福と平安あれ）は、地においてアッラーが最も愛される場所がモスクであることを教えられておられます。従ってモスクに来る際には、適当に選んだ服ではなく、最もよい服を着てくるべきです。モスクを汚し、雰囲気を壊し、集団を苦痛にするような振舞いは避けなければなりません。

ムスリムの皆様。モスクにおいては、工事から清掃、照明に至るまで、全ての奉仕は賞賛に値するものです。聖預言者（彼の上に祝福と平安あれ）は、あるハディースで次のようにおっしゃられておられます。「誰であれ、モスクを建設すれば、アッラーもその人に天国であずまやを造られるだろう。」また他のハディースでは、アブー・フライラは次のように伝えています。「いつもモスクを掃き、きれいに掃除する人がいた。ある時、預言者（彼の上に祝福と平安あれ）は彼女をしばらくご覧になることができず、心配して尋ねられた。彼女が死んだということが伝えられると、『どうして私に知らせなかったのか。』といわれ、墓を見せるようにいわれた。そして墓に行かれ、彼女のために葬儀の礼拝を行なわれた。」

親愛なるムスリムの皆様。モスクや礼拝所が造られる目的は、そこで集団で礼拝が行なわれることです。モスクや礼拝所は同時に、人々にハラールとハラームを教え、よい徳や正しさ、誠実さを教え、愛情や敬意、兄弟愛の精神によって運営される聖なる空間です。殉教やイスラームの戦士の崇高さ、純潔や名誉を守ることの誇りといった、多くの宗教的、民族的意識を人々に与える、知性や文化のゆりかごなのです。

今日のフトバを、預言者（彼の上に祝福と平安あれ）の聖ハディースで締めくくりたいと思います。「人がアッラーが義務とされたことの一つを実践する為、その家で体を清め、モスクへ出かけるなら、その人の一歩一歩が、罪から清められること、その人を高めることへの要因となるだろう。」